

第2回なかい戦略みらい会議 議事概要

日時:平成27年9月16 日(水)
午前10時00分～12時00分
会場:中井町役場 3 階 3A 会議室

【会議次第】

(開 会)

1. あいさつ
2. 議 題
 - 1)「中井町人口ビジョン骨子案」について(資料1、1-1)
 - 2)「まちづくり参考事例」について(資料2)
 - 3)総合戦略提案事業につて(資料3、追加資料)
3. その他

(閉会)

【議事概要】

1. あいさつ 中井町 権守企画課長からあいさつ

○企画課長: おはようございます。前回の会議では委員の皆様から多面にわたりご意見をいただきました。それらのご意見を踏まえ、本日の議題に沿って資料を作成しましたのでご協議いただきたいと思います。また、委員の皆様からも総合戦略に位置付ける事業についてのご提案を多数いただいておりますので、後程発表いただきたいと思います。さらに杉本座長からはまちづくりの参考事例ということで、事例紹介をしていただきます。それでは協議事項に移りますが、進行は要綱第5条に基づき杉本座長にお願いいたします。

2. 議 題

1)「中井町人口ビジョン骨子案」について(資料1、1-1)

○事 務 局: 資料1及び資料1-1により説明

○杉本座長: 事務局からの説明に対して、ご質問・ご意見ありましたらよろしくお願ひします。

- 眞壁委員： 統計のベースとなっている死亡に関する生残率というのはどういう風に設定されていますか。
- 事務局： 社人研の生残率と言う数字がありますが、その数字を基本的にはそのまま使っています。健康づくりなどの取組みと生残率の改善の相関を推計するのは難しく、出生率と転入転出の純移動の数字だけを使っての推計が人口ビジョンでは一般的であるため、そのようにしています。
- 武田委員： 近隣の二宮町の例を見ると30～40年前に東海道線の駅もあることからベッドタウンとして人口が非常に増えた。現在はこういった人たちの高齢化が進み、利便性の高いところへ移り住む人が多く、空き家が増えていると思う。そういった点で中井町は中村地区においては、市街化区域が限られていることから、おそらく人口の増減はそれほどなく、井ノ口地区の方は二宮町と同じく、30～40年前頃に比べると新しい人たちが相当流入していると思うが、町の方で中井町の地区ごとの人口データが用意できれば、もう少し転入・転出の傾向を分析できるのではないかと。また、人口の増加を考えるには農振地域などの土地の規制を外さないと難しいのではないかと個人的には考えます。
- 事務局： 第1回でお配りしている資料5「まちづくり白書」の中、P.4に地域毎のデータがあります。この中で見ると井ノ口の中だけは人口増加がみられますが、その他の地区では横這いか減となっています。アンケート調査の中でも世帯分離して若い世代が外に出ているという状況はあるようです。井ノ口の出入りが多いのは借家の方が入って出ていくという状況もあるのですが、数字まではまだ確定出来ていないので、人口推計上細かく見ることが出来ませんが、考える必要があるかと思えます。
- 瀬戸委員： この将来人口の目標数字は、仕事とか通勤圏、不便さなどは人口減の原因だと思いますが、それは抜きにして人口目標だけを立てていくということなんでしょうか。
- 事務局： 今回の総合戦略では先に人口ビジョンを設定し、その人口ビジョンの目標人口を達成するために、どんな戦略を取るかという考え方で策定するようになっています。あまり現実味のない目標人口では達成できないことにはなりますが、ある程度達成できそうな目標人口を設定し、それに向けてどんな取組をしていくのかということ、この後皆さんで議論していただく取組で達成していくというものになります。

- 杉本座長： 目標数字を仮に設定して、これから議論する施策で、目標値を達成できるかということですか。
- 瀬戸委員： では、この目標も仮の目標で最後までこの数字を目指すという訳ではないということですか。
- 事務局： 資料1のP.8～9を参考にさせていただきたいのですが、人口が減少することによるコミュニティ面での負のスパイラル、税収が減ることで公共サービスが出来なくなるという負のスパイラルに陥らないよう、最初に将来人口の目標を作りその為の対策をどう打っていくか、という考え方で作っているということですか。
- 吉田委員： P.12の一番下にある、「⑤ ②をベースに、5年間で純移動が100人改善」ということを目標にしていくということだと思いますが、どこから人がやって来るのかということ考えた時に、神奈川県内で人を取り合っても仕方ないということもあります。ファミリー層を入れていくという施策は良いと思いますが、出生率を1.42で止めていくという考え方になっており、出生率を上げていかないことが気になりました。純移動だけで人を維持していくという考え方ですと、国全体を考えた時にあまり得策ではないように感じました。何をやっていくのかが重要だと思いますので、目標があまり低い設定ですと、それに向かう施策も充実してこないのかなと思いました。
- 事務局： この出生率に関しては、ぜひご議論をいただきたい点でもあります。可能であれば国の目指す出生率を使うことも考えられますが、現状を重視しすぎると低くなりますし、理想を追いすぎると高くなりすぎる、県と国との関係でどのくらいまで上げたら良いのかは、率直にぜひご議論いただけたら有難いと思います。
- 杉本座長： 転入の数字もとても高いですね。
- 事務局： 出生率を上げても人口が大幅に伸びないという大きな問題は、中井町に30代の女性がそれ程いないということがあり、30代の女性を呼び込むと同時に出生率を上げるという両方の施策を同時に行わなければならないという点があり、5年間で100人のファミリー層を入れないと人口の出生率を上げてもなかなか下げ幅が縮まらないということで、非常に苦慮しているというところがあります。
- 武田委員： ファミリー層を増やさなければならないことが課題だとすれば、生活する糧となる職場環境が無ければダメだと思います。そういう人達を受け入れてくれる就労場

所が必要だと思います。積極的に地元居住者の採用を検討していただくということも必要ではないでしょうか。住環境が良くてもそういうことがないと定住することがないと思います。

○大槻委員： 企業の立場から現状を申しますと、おっしゃるとおり、従業者で中井町に住んでいらっしゃる方は非常に少ないです。職種もいろいろありますので、正社員だけでなく派遣スタッフさん請負さんなどもありますが、正直苦しんでいるのは求人を出しても人が来てくれないというところです。中井町周辺、秦野・二宮でも苦しく、厚木・平塚まで広げてようやく人を確保できるかどうかという状況で、企業の就労場所と共にもう少し色々な条件が整わなければ難しいのではないかと感じます。ただ、就労場所を確保するという事は私自身も絶対条件だと感じています。

○瀬戸委員： 院卒以上が正社員の採用条件という話しも聞きますが。

○大槻委員： もちろんそういう人材もおりますが、極端な話食堂を維持するだけでも外部業者さんが 20 名くらいいますが、そこでも人が集まらなると苦勞されていますし、派遣スタッフさんの事務も人が集まらなるといふ状況です。実は東京からコールセンター機能を丸ごとこちらに移して立上げて 70 名ほどここで働いてもらっていますが、なかなか人が集まらなくて非常に苦しんでいます。色々な職種があるというところはご理解いただけたらと思います。

○平野委員： 私も企業の立場として同じ意見でして、実際にパートタイマーの方を中心にやっているのですが、求人広告をだしても、現状としては中井町からの応募は少なく、秦野、平塚、二宮からの方が多いいというのが現状です。私たちも人材確保に非常に苦しんでいます。中井物流センターというところだと、交通の便が悪いということもあって、通う方も非常に苦しんでいるというところもあり、駐車場の確保なども必要になったりしますが、人材確保については色々な面で苦しんでいるというのが現状です。

○杉本座長： 需要と供給があるんだろうと思いますが、その間をつなぐ情報などが無いというのが結構あるのではないかと思います。

○事務局： 合計特殊出生率は 2.07 を採用するかどうかは別として、少しずつ出生率も上がっていくという設定で進めるということで良いでしょうか。

○杉本座長： そうですね。100 人の転入はどうするか検討する必要があると思います。

2)「まちづくり参考事例」について(資料2)

○杉本座長： 資料2により事例紹介

(意見等無し)

3)総合戦略提案事業について(資料3、追加資料)

○事務局： 資料3により説明

(意見等無し)

○杉本座長： 続いて各委員からご提案いただいた事業案を「追加資料」としておりますので、順次、各委員からご説明をお願いします。

○瀬戸委員： 追加資料「No.1 山地放牧、中井版クラインガルデン」について説明

- ・耕作放棄農地対策、景観対策として、景観が良くて使われていない農地を、農業したいという個人に期間限定で斡旋する。運営は事業者任せに農業委員会がチェックするなどの仕組みが必要かと思う。条件が揃えば休憩できるトレーラーなどの貸出も検討する。
- ・荒れた杉林については、アスレチックなどに利用するというのも出来るのではないかと思う。
- ・川の整備をしていく事も必要、ボランティアや学生などの協力で維持していくように。山林も荒れているのでペレット材に使うなども出来るのではないかと思う。

○小清水委員： 追加資料「No.2 町民目線のきめ細かな子育て支援」について説明

- ・現状の子育て世代の環境を整えることから始めたら良いのではないかと思った。リアルなアンケートを実施し、何を必要、希望しているのかなどを知ることで、環境を整えて中井町で結婚、出産、子育てにつながるように対策していく
- ・各企業の新入社員さんの交流会、中井フェスティバルのサポートやボランティア募集などもしていく。

○三宅委員： 追加資料「No.4 創業支援事業」について説明

- ・安定した雇用の創出支援が出来るように、創業支援事業を提案
- ・行政、商工会の連携を再構築して、新たな創業支援を築き上げていく中で協力が出来ればと考えている。
- ・支援体制はエリアにある25店舗での取り扱いと本部での専門スタッフによるバックアップを

行い、中小企業診断士による事業計画書作成支援やその他の専門スタッフの派遣も行う。
・3年間はモニタリングを実施し、事業計画の見直しなども支援する。

○眞壁委員： 追加資料「No.5 中井中央公園におけるスポーツ利用による人の流れ創出」について説明

- ・全国からの人口流入を目指して「中井」の名前を PR するために、グラウンドとしてのレベルの高い中井中央公園を活かして、強豪チームを誘致することで PR する。
- ・農業のプロモーションが必要だと感じるので、死にかけている農地を第三者に再利用してもらいような事業もあってよいと思う。千葉ではそうした週末農地活用が盛んだが、神奈川の方が都心部の人にとっては交通の便が良いので、ポテンシャルは高いはず。週末農地活用をした人を将来的には定住(納税)に結びつけるようにしていくというような仕組みもあったら良いと思う。

○大槻委員： 追加資料「No.6 まちづくりで健康寿命を延ばそう」及び「No.7 こどもたちに地域全体で社会経験を」について説明

- ・我々としても注目している「健康寿命」を延ばすための取組として、群馬県中之条町で行なった事例のような活動量計による運動量の計測をまち全体で行い、中井町は「日本一健康なまち」を目指すと良いと思う。
- ・また、No7については「子供の教育環境が素晴らしい町」を目指して、これだけ多くの企業や団体が町内にはあるので、職業経験や社会体験の場をもっと提供していくことができるのではないかと思います。

○平野委員： 追加資料「No.8 公共交通機関(バス)の充実」について説明

- ・自然が広がる工業団地として、公共交通機関を充実させる必要があるのもっと人が来やすい状況を作れば、町としても PR 出来るのではないかと思います。

○武田委員： 追加資料「No.9 農業体験事業」について説明

- ・観光型の農業体験事業を提案。大井町では 10 年くらい前から東京の農協関係の観光会社と提携し、都心部の都立の学校の農業体験をしている。中井町も立地条件は良いことと農業の種類も多くあるので、行政の協力も得て受け入れ態勢の組織をまず作り、農業でも生活できるような形を作れたら良いのではないかと思います。

※追加資料「No.3 新規就農者確保支援」については欠席の及川委員からの提案であったため説明は無し。

○杉本座長： ありがとうございます。いただいたご提案は事務局の方で受け取っていただき、委員の皆様からはかなり積極的なご意見もありましたので、前向きな検討をお願いします。それでは議題4 その他について事務局からお願いします。

○事務局： 次回、戦略みらい会議の開催日時を提示（10月27日（火）10:00～）

○杉本座長： ありがとうございます。それでは本日の議題は以上です。他に無いようでしたら事務局にお返しします。

○事務局： それでは、長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。次回会議に向けて人口ビジョン、総合戦略の策定を進めてまいります。皆様からいただいたご意見も踏まえ、より良いものを目指していきたいと考えております。それでは本日の会議は以上といたします。

以上